
鬼灯さん家の戦闘事情

白蜜印のメイド漬け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼灯さん家の戦闘事情

【Nコード】

N7823X

【作者名】

白蜜印のメイド漬け

【あらすじ】

暴力姉から逃げるように独り立ちした鬼灯優作だが、新たに赴いた学院で姉の燐子と再会してしまう。しかも、燐子は学院長で、さらにここは男子禁制の——女学院だった！

其の一／鬼灯さん家の戦闘事情

四畳半のリングで格闘する姉弟がいた。

「はあっ、はあっ——」

妖艶な息遣い。

「ね、姉さん！ そろそろ限界だっ……！」

迸る汗。

加速する淫靡な世界——

ではなく。

「何言つてんだ、テメー。限界かどうかの判断は、姉ちゃんに委ねられているんだよ！」

暴力の世界。

「んなバカなっ！？」

暴力というのは語弊があるか。

この二人は姉弟。つまりは家族。そう、これは家族のコミュニケーションなのだ。

「バカ？ テメー誰に向かって言つてんだ、ゴルァ！」

恫喝する姉の口調は、完全に表舞台に立つてはいけない人達の口調だった。

手足をホールドした状態から一気に逆海老反り状態へ。

「ぐはぁ！ 苦しい！ ギブギブ！」

引き締まる腕力に限界を感じた弟が、畳を叩きまくる。

「だから何度も言わせんな。限界かどうかの判断は、姉ちゃんが決めるんだよ——！」

グギギギ！

今日一番の力で、姉は弟をホールドした。

なつてはいけない鈍い音が——バキッ！ 弾けた。

「ん？ 変な音がしたな」

何気なく見た弟の顔は青ざめていた。手足も痙攣してて、口から

泡まで吹いている。

「何だ。骨が折れただけか」

厳密には失神付きだ。

そして、訂正しよう。

これは、家族のコミュニケーションではない。ただの暴力だ。

そう——彼、鬼灯優作の姉、鬼灯燐子は、人を玩具にするのが大好きな——とてつもなくサディスティックな悪魔なのだ。

行き過ぎた愛情ではなく、ただ単に自分が楽しいからやるだけ。世界中に共感を求めても、ほぼ全員がこの趣味を理解できないだろう。

そんな暴力姉から逃げるように、弟の優作は、高校入学を機に独り立ちをした。

「……こ、ここなのか？」

燐子から渡された地図は、どうやらここを示している。間違っているのではないようだ。

東京ドーム二つ分の敷地面積に埋められた白い丸石。

社寺を彷彿とさせる造りの木造建ての学び舎。

女性恐怖症というトラウマを抱えながら赴いた、その学園が掲げる表札を見て、優作は愕然とした。

私立妖蘭女学院。

「女子高生じゃねえか——！」

思わず、声を大して叫んだ。

「——その通りだ」

遠くから、聞き馴れた声が届く。

まさか——！？

突き刺すように視線をそちらに向けた。

正面。境内の中心。

広大な敷地の中心で、腕を組んでほくそ笑む——

「り、燐子姉……」

実の姉の姿が。

「ようこそ新入生。私がこの学院の王、鬼灯燐子様だ！」
吹き荒ぶ春の風。

満開の桜が踊るその中で、優作は青春と別れを告げた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7823x/>

鬼灯さん家の戦闘事情

2011年10月21日03時04分発行